

SRIDNEWS LETTER

No. 388 April 国際開発研究者協会 創設者 大来佐武郎

〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

URL: <http://www.sridonline.net/>

ヨーロッパ旅日記別号 ポーで過ごした一年

日本福祉大学 今井正幸

お知らせ

1. 総会 日時：4月22日(火) 午後6時から8時30分

場所：国際協力銀行 開発金融研究所内 大会議室

3. 退会

4. 懇談会

ヨーロッパ旅日記別号

ポーで過ごした一年

日本福祉大学 今井正幸

「今、なぜフランスに居るのですか」（その年で？）高校の同級生の女性が素朴な疑問をメールしてきました、大学の制度を活用したサバティカル留学で、2000年7月から翌年8月末までスペインとの国境に近いポーで久々にフランス語漬けの学生生活を送りました。

中世のナバール王国の首都であり、ブルボン朝の創始者アンリ4世の生まれた城のある丘の上につくられたこの閑静な都市は、詩人ラマルティエヌが「海上はナポリ、地上はポーが世界の景観だ」と褒め称えた美しい街です。

キャンパスは町の中からバスで15分、広々とした緑地に囲まれていました。博士コースは昔と変わらず老若男女。国籍も様々で、講義は早く興味深い。中でも

地域経済統合の専門家 Le Casheux 教授の博識とその明哲な講義には惚れ惚れしました。苦手なパソコンも、ゆっくり取り組んで、自宅のバルコンの向こうにピレネー山脈の雪をながめながら毎日コトコトと作業をしていました。また、多くの学会に参加できたことは大きな収穫でした。ポー大学で数回、他にツールーズ、パリ、ラバト（モロッコ）など機会を見ては参加しました。（帰国後も病みつきとなって毎年 2～3 回学会参加のため渡欧しています。）学会では必ず開催都市主催のレセプションが行われるのが印象的でした。そして何時しか開発学会「第三世界」のコミティ・メンバーに選ばれていました。

外国旅行もしました。中欧、スペイン、ポルトガル、コルシカ島、シシリー島、果ては中米のコスタリカ、エルサルバドル、グアテマラへ。そしてポーに近いバスク地方の町々、バイヨンヌ、ビアリッツ、サン・セバスティアンへと。30 数年前、パリ大学留学時代に、若者の外国人仲間から「大いなる旅行者」と呼ばれたことを思い出しました。

ポー市の郊外にはヨーロッパ大陸で一番古いゴルフ場があり、年会費 10 万円で他は無料ですから毎週のように通いました。顔なじみもでき、時にはコンペにも参加しました。帰国のころ大変上手いスコットランド人に「ここを造ったのは英国人ではない。スコットランド人だ。」とたしなめられたことがあります。英国とスコットランドは今でも同じではないと言いたいのですね。

ここでの生活は、喧騒・闘争・効率などは鳴りを潜め、空間・時間等すべてが余裕と静謐に満ちているように思われました。私は何時、このような真にゆとりのある生活を得ることができるでしょうか？